



※表は、にかほ市・県・国を比較したものです。点数の公表はしていませんのでご了承ください。

調査の概要

文部科学省では、平成19年度から小学校第6学年及び中学校第3学年の全児童生徒を対象に全国的に子どもたちの学力状況を把握する「全国学力・学習状況調査」を実施しています。

本調査は、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況等を把握・分析することにより、教育及び教育施設の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目的としています。また、各教育委員会・学校等が全国的な状況との関連において自らの教育及び教育施設の成果と課題を把握し、その改善を図り、併せて児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲向上につなげることも目的としています。

調査は、国語及び算数・数学について、基本的な知識・技能の定着をみる「知識」に関する問題（国語A及び算数・数学A）と知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する能力を見る「活用」に関する問題（国語B及び算数・数学B）を「教科に関する調査」として出題しています。

ます。また、児童生徒の生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査も実施しています。

結果の概要

教科に関する調査（表1）

「知識」など基礎学力を問う問題（A）、思考力など「活用する力」を問う問題（B）ともに、全国平均と比較すると、本市の小学校、中学校ともに高いレベルで良好な状態と考えられます。県平均と比較しても、小学校は国語Aで県平均を上回り、他の教科では県平均との差はわずかです。また、中学校はすべての

教科で県平均を上回っています。

生活習慣や学習環境等に関する調査（表2）

全国平均や県平均と比較すると、表2から「朝食を食べる」、「早寝・早起き」などの基本的な生活習慣がきちんと身に付いている児童生徒が多いことが分かります。また、「テレビやビデオ・DVDの視聴時間」が比較的少なく、「自分で計画を立て、毎日、家庭で1時間以上勉強する」児童生徒の割合が高くなっています。

表1 教科に関する調査結果

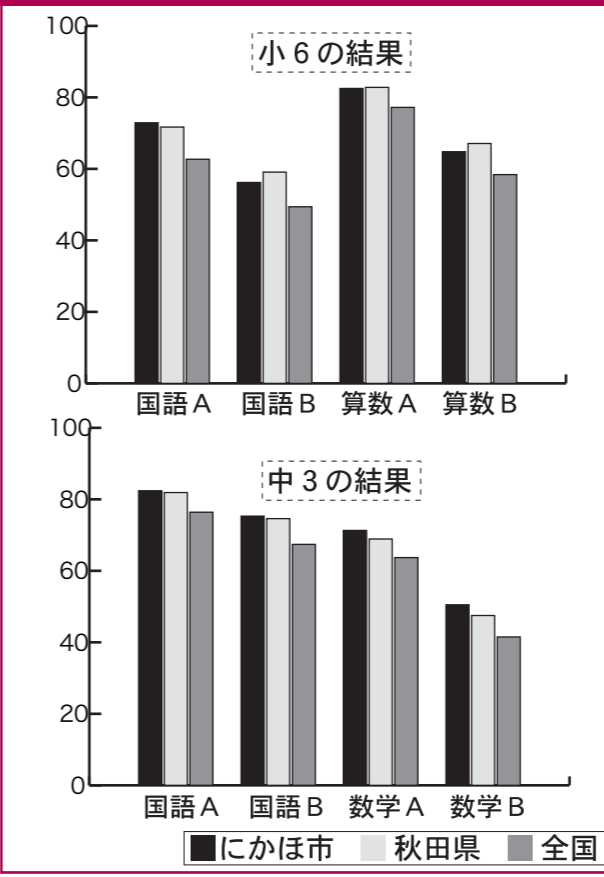
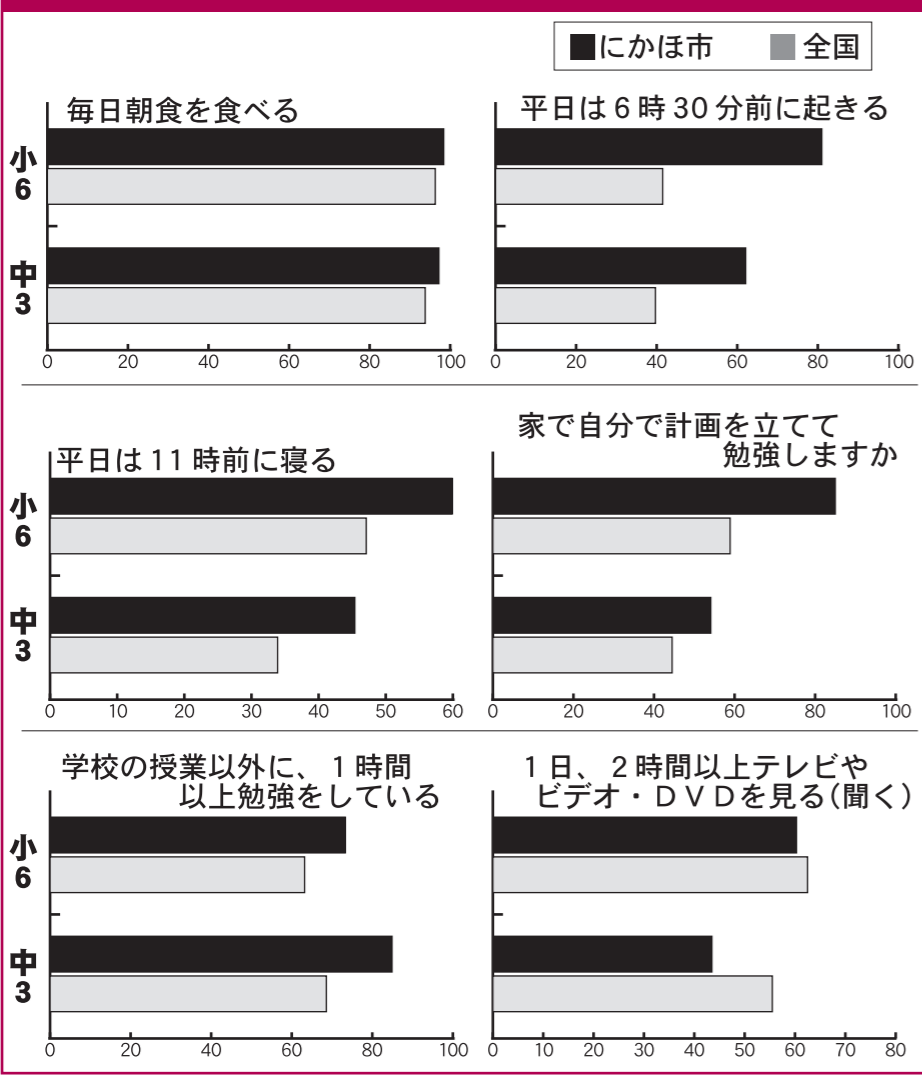


表2 生活習慣や学習習慣等に関する調査結果



結果の考察

全国平均と比較すると、A問題の結果から、小学校、中学校ともに、基礎的・基本的な内容の習得が図られていると言えます。これは、各校の学習指導において、個に応じたきめ細やかな指導が行われてきた結果ととらえることができます。

B問題の結果からは、各校において、知識・技能を獲得する過程で思考力、判断力、表現力等を高めていくような、いわゆる問題解決的な学習を推進してきた成果として、基礎的な知識及び技能を活用する力が児童生徒に身に付いてきていると言えます。

また、文部科学省の分析では、規則正しい生活習慣と学習習慣の確立が、学力と関係していることが示唆されており、主に次のような項目に当てはまる児童生徒の方が、正答率が高い傾向にあるとしています。

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日同じくらいの時刻に寝たり起きたりする
- ・家で自分で計画を立てて勉強している
- ・一日当りの家での学習時間が長い
- ・テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりする時間が短い

課題と対策

少しずつ成果が上がってきてはいるものの、ここ数年の傾向として思考力・判断力・表現力の育成にやや課題を残す結果となっています。この傾向を改善するため、特に小学校の国語では、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりする機会を増やしていくことが重要と考えています。

また、算数・数学では、問題の解き方や考え方が分かるノートづくりを行うなど、ノート指導を充実させていくことが必要であると考えています。

問合せ 教育委員会学校教育課
☎ 38・2266

表3 朝食と学力の関係

